

---

# 夏の落とし子

天地 とんぼ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の落とし子

### 【Nコード】

N9214A

### 【作者名】

天地 とんぼ

### 【あらすじ】

僕は夏休みの塾の帰り道、一人の少年に出会った。

…かーごめかごめ。かーごのなーかのとーりーは。いついつであーう。となりのばんに。つーるとかーめがすーべった。うしろのしよめんだーね。

だーあれ？

「キミ、どっから来たの？」

「だーあれ？」

「お母さんはどこにいるの？」

「だーあれ？」

塾の帰り道。早く帰らないとお母さんが怒るのに、家の近くの公園で、一人の少年が近寄ってきて、いきなり《かごめかごめ》を歌い始め、

「うしろのしよめんだーあれ」

と僕に問掛けている。

中学3年の僕にとって、この夏休みは戦争なのだ。いつも親には

「頑張つて勉強して、いい高校へ」

と言われるし、学校の先生だって目が合えばいつも

「期待してるぞー！」

と言う。

だから僕は学校での休み時間だって、クラスメートに指をさされな

がらの視線を気にしながらも、《高校high level》の参考書を読んでいなければならなかったのだ。靴を隠されたり、給食が自分の分だけなかったりしても耐えて勉強を続けた。

しかし今、この少年のせいで、夕飯までの3時間の勉強時間を削られているのだ。

この僕ともあろうものが。

「キミ、迷子なのかな？」

「だーあれー？」

…だーあれーって、少年は僕の目の前にいるんだから、後ろになんて誰もいるわけが…

「…だーあれ」

ん？おかしいぞ。後ろからも声がする。

そうか。この少年の友達だな。

みんな、よってたかって僕を馬鹿にして!!

「もういい加減に…」

…バタっ……

「ん？おねえーちゃん、おにいーちゃんどうしたのかな？」  
「気にしなくていいのよ」

少年は首を傾げ、失神したおにいちゃんを見ていた。  
女は片方しかない顔を歪ませて、笑みを浮かべた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9214a/>

---

夏の落とし子

2010年11月26日07時22分発行